



「もっと詳しく知りたい項目や今後掘り下げて学びたい分野」

- ・季節的にインフルエンザ。
- ・訪問診療をする、受ける為の具体的な準備、基本的な知識と、精神的な面の情報をもっと具体的に知りたかった。他職種との連携の仕方とか。
- ・病院入院から在宅(施設を含む)での終末期の過ごし方の未来について。
- ・在宅医療での多職種連携について。
- ・末期の対処法。
- ・不安な患者によりそうためにどうしたらよいか。
- ・訪問診療の経済的な面について。
- ・前立腺癌について、症状や注意事項。
- ・訪問診療、訪問看護などと病院との連携について。在宅への退院に向けて、退院までの間に情報交換すべきこと。家族への指導の重要性(どのようなことを重点的に行うべきか)など。
- ・患者さんの症状や抗癌効果の変化による薬の使い方。
- ・癌性疼痛に対する鎮痛剤の使用。
- ・訪問リハビリについて。
- ・がん末期の症状と対処方法をもっと勉強して個々の患者さんの生活の質を良くしたい。症例提示が興味深かった。

「今後の業務で活かせると思ったこと」

- ・症例提示は具体的でイメージしやすかった。
- ・がん等疼痛管理が必要な場合は、在宅で疼痛管理が出来るのかといった点をよくよく確認していきたいと思いました。
- ・在宅の方への訪問診療は2週間程度で道筋を付けると長く在宅で過ごすことが出来る。
- ・在宅で看取りが具体的にできることを実感した。実母への対応に医療面で協力しながら取り組みたいと思った。症例は役に立つ。
- ・それぞれのがんの特徴。がん末期の症状と対処法。
- ・自宅で高齢の母を介助していますが、今日のテーマは特に自分の今後の病気になった時どうするか等考える機会になりました。
- ・末廣先生の日頃の診療姿勢に感銘を受けました。
- ・終末期の選択と実際の選択の違い。本人の意志の確認とそれぞれの時期での確認の必要性。
- ・ターミナルケアの状態が大変勉強になった。
- ・在宅業務での処方相談。
- ・末期の方症状と対処法が参考になりました。
- ・癌治療と同時に疼痛コントロールを行っていく点。
- ・症例提示で在宅の流れがよくわかったので、服薬説明などに活かしていきたい。

「次年度の遠賀中間地域多職種連携についての希望」

- ・災害等。
- ・これは蛇足かもしれないが、講師の先生の言葉がはっきり聞き取れなかった。つぶやくような話し方ではなく、全体に聞こえるような明確な話し方にしてほしい。患者1人1人に対するには今のでよいと思うが。
- ・Drの病気の治療の仕方などが参考になります。